

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	多文化教育ファシリテーター養成とプログラム開発事業～「多文化な わたし あなた みんな」							
団体名	公益財団法人浜松国際交流協会							

***** 事業のポイント *****



- ・ 外国にルーツを持ち、浜松で育った若者たちが、自分の体験を見つめなおし、受容し、さらに社会へ向けて自らの思いを発信するために行った一連のプログラム。
- ・ 彼らが学んだワークショップ・プログラムと、彼ら自身が作った社会への発信のための活動案、そして彼ら自身の思いとメッセージを一冊の教材「多文化な わたし あなた みんな」にまとめた。日本語・英語・ポルトガル語の3ヶ国語表記。誰もが、自分の中の多文化性を発見するための教材として応用できる。英語教材として、またブラジル人学校などでも使える。
- ・ 参加者・講師・企画者ともに多文化なメンバーで構成。

助成年度 区分	平成21年度地域国際化協会等先導的施策支援事業	事業総額	1,200千円
------------	-------------------------	------	---------

事業の内容、成果等

●事業実施の背景

日本に定住・永住する外国人は近年着実に増加。また、日本人と外国人の国際結婚も2008年には全婚姻数19組中1組であり、彼らの子どもたちは両方の文化を受け継いで育っている。また、日本国籍取得者数も増加傾向であり、外国にルーツを持つ「日本人」も確実に増加している。日本は既に多文化な人々で構成されている。

在日韓国・朝鮮人はいうに及ばず、ニューカマーと呼ばれるアジアや南米からの外国人もすでに日本で育ったり生まれたりした世代が大人になり、社会の構成員として活躍している。しかし、彼らの声を日本社会はどれだけ受け止めているのだろうか。すでに日本社会の一員となっている彼らの思いを聞き、私たち自身がともに社会をつくっていく当事者として彼らと向き合うことが今、求められていることではないか。そのような思いからこの「多文化教育ファシリテーター養成プログラム」は企画された。

●目的

日本で生まれたり育った外国にルーツを持つ若者たちは、バイリンガルやバイカルチュラルで多文化な存在であり、彼らのような人材が自分自身の多文化的要素をプラスと捉え、その経験や思い・考えを社会に伝えていくことが、日本の社会を真の意味で多文化社会へと変える貴重な機会を提供する。彼らこそが多文化共生社会づくりのキーとなる人材である。そこで、彼らが多文化教育ファシリテーターとしてより効果的に自らの多文化性を活かした講座やプログラムが組めるよう研修を行った。さらに、この研修の過程で、自らの経験や多文化性を見つめ直すことを通し、彼ら自身が自らの力に気づく、エンパワメントを目指したものである。

●内容

【参加者】4カ国(ブラジル・ベトナム・フィリピン・日本)、9人で開始。最終的に3人がプログラムを完成し、発表する機会を持った。

【プログラム】

5月31日	オリエンテーション：自分の異文化への柔軟性を測るチェックシート（Intercultural Development Inventory）を記入
① 6月7日 ② 6月14日 講師：Jon Dujmovich	ワークショップ①②「自分を知る」 自分の体験を掘り下げる
③7月12日④7月26日 講師：Jon Dujmovich	ワークショップ③④「自分を表現する」 自分の体験を伝える効果的な方法について
8月～10月	自身のプログラムを考案
11月1日	大学生向け研修会にて発表
11月28日	国際理解教育セミナー「アース（明日）カレッジ in 静岡」で発表
1月17日	国際理解教育セミナー「アース（明日）カレッジはままつプログラム」で発表
1月～2月	中学・高校に出前講座を実施
2月	報告書のためにプロフィールを執筆。報告書発行。

【報告書「多文化な わたし あなた みんな」の構成】

第1部 多文化教育ファシリテーター養成プログラムと教案「Multicultural Me 多文化な私」	
	講師 Jon Dujmovich 氏による多文化コミュニケーションのためのプログラム及び活動案の紹介（上記プログラムのオリエンテーションとワークショップ①～④）。
	児童・生徒の多文化コミュニケーション力の向上を目指す授業や英語の授業において応用可能。
第2部 参加メンバーの声	
	参加者3名のプロフィールと自身の活動案の紹介。
	主に、外国にルーツを持つ児童・生徒のロールモデルとして、または出前講座の参考として活用可能。
第3部 講師・企画者の横顔	
	講師・企画者のプロフィールを紹介。この事業に携わった講師・企画者の思いを紹介。



アース（明日）カレッジはままつプログラムで発表



作品「多文化な私」



アース（明日）カレッジ in 静岡で発表

●工夫点

- ・企画者には日系ブラジル人、講師には異文化コミュニケーションの専門家で様々なルーツを持つカナダ人など、多文化体験の豊富な人材を迎え、当事者の視点を大切にした。
- ・様々な他のプログラムとの連携で、後半に発表の場を設定し、具体的な目標を掲げた。
- ・最後に文章で自分の思いをまとめることで、自分の考えを整理し、自信をつけることにつなげた。（何度も原稿を書き直してもらい、その度に自分の考えや思いを具体的に引き出すような話し合いを重ねた）

●苦勞した点

- ・外国にルーツを持つ若者の参加者を集めること、そして集まった参加者に継続して講座に参加してもらうことが非常に難しかった。前期に連続して日曜日に講座を設けたが、アルバイトや恋人・友人とのつきあいなどで忙しい若者たちには参加しにくい日程であったようだ。
- ・高校生など、まだ十分に自分の体験が熟成されておらず、客観的に振り返ることが難しい場合には、自分自身の体験を振り返る作業が苦しくなってしまう、参加できなくなってしまった。
- ・自分のことについて発表するプログラム案をつくるにあたり、場合によっては一人ひとりのこれまでの人生に向き合うような濃密な人間関係が必要となり、誠実にきめ細かに対応することが求められ、細やかな精神と気力、体力そして多くの時間が必要であった。

●成果

- ・中学・高校・地域の国際理解セミナー、外国人高校生対象など様々な機会での発表を実施することができた。
- ・報告書があることにより、新しい仲間を呼びかけることもできている。
- ・外国にルーツを持つ若者世代と強いつながりを持つことができた。

●今後の課題

- ・より多くの外国にルーツを持つ若者たちとつながっていくこと。他のNPOの主催する若者交流会などと連携して、若者自身のより主体的な動きを支援していきたい。しかし、若者は自身の状況が変化しやすく、例えば就職、進学、人間関係の変化などが理由で継続して関わってもらうことが難しいのも事実。